

令和5年度 大田区立松山小学校 自己評価 報告書

令和6年3月1日

○ 本校の概要

- \* 今年度学校70周年を迎え、特に記念式典を予定している。児童数744名、23学級、地域からは5年前に設立して一定程度の評価を得ている。
- \* 正統教員31名、教員全体の平均年齢は37.5歳で、2013年度以降の経験した教員が刷新されている。校内において教員としての基礎・基本の徹底及び教職としての資質・能力の育成を図っており、成果が徐々に出てきているが、現体制を維持しながら、教員の資質向上を図っていく必要がある。
- \* 「健康・安全・人権」を学校教育の基盤とし、「挨拶・運動・読書・思いやり」を大切にする「あひろの学校づくり」で児童の育成を図っている。
- \* 本学級の研究「主体的に学びあう授業」を推進し、体育科における主体的に学ぶ授業の実践を推進し、言語活動を通じて児童の育成を図っている。令和5年度 文部科学省教育課程実践検証協力校
- \* 多様な関係者と連携を推進するために、毎年、全学年学年総集会を実施し、「リージュ・イン・ス」のプログラムを基に児童に新しい自分の可能性を追求し、自尊感情を高める、主体的に活動できる取組をする。
- \* 委員会活動の充実、朝来活動の充実と交流を促進し、特に高学年の自己責任意識や役割意識を醸成して帰郷と誇りを育むことに取り組んでいる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	中項目	取組内容	取組目標	達成率	達成目標	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者評価	
							評価	コメント
未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力、これからの社会の変化に「しなやか」に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語指導員を効果的に活用し、外国語教育指導員を効果的に活用し、外国語の力とコミュニケーション能力の育成を図る。	4:「おおたね」で全ての教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・30分の授業時間を利用して、英語カフェを年間6回開催した。外国語専科教員とALTを中心に英語のコミュニケーション能力の育成を図った。 今後も継続し、英語のコミュニケーション能力の向上を目指す。	A 4 B 4 C 0 D 1	・ICTの活用は、概ね順調に取り組みが進んでいる。	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたねのつくり」を生かした体験活動や課題授業等を実施する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・課題解決の主体的な学びを目指し、体験活動の充実を図った。 来年度は、校内研究科として「おおたねつくり」に取組んでいく。		・学校公開の授業参観では、ICT機器を利用した授業が活発に行われていると感じた。	
		学力の定着と意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:70%以上の教員がChromebookに月に10日以上ログインした。 2:60%以上の教員がChromebookに月に10日以上ログインした。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・各学年にICT機器を設置し、授業におけるタブレット活用も進んでいる。 来年度も「効果的なICTの活用」をテーマに取組んでいく。		・コミュニケーションの充実をさらに図ってほしい。	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・人権に起因した教育活動を推進して、児童を中心に、他者理解を重点に取組んだ。また、校長・生活指導主事を中心に人権プログラムに基づき、教職員の研修を実施した。		・英語カフェの継続と回数を増やして行く必要がある。	
学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	保護者アンケート「学習意欲を伸ばしている」の項目に肯定的な回答は、83.8%。 ・はい 50.5% ・どちらかといえばいい 33.3%	A 4 B 5 C 0 D 0	・保護者アンケートで、A評価が約50%あるが、今後も引き続き達成できるよう取り組んでほしい。	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	保護者アンケート「授業中、勉強がわかる」の項目に肯定的な回答は、92.7%。 ・よくわかる 59.5% ・だいたいわかる 34.0%		・個別対応が必要な児童が増えているように感じる。対応するための人員を増やす必要がある。	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・算数の補習は、1,2年生は年間10回、3年生以上は年間10回程度、取組んでいる。また、外国語教育の欠席率も、補習を行い学習の促進に努めた。 ・主体的に学習に取り組む児童の育成を図るために、「学習のめざす」や「授業のめざす」を明示し、見直しをもたせる取組を行った。		・先生方は、頑張っていると感じる。保護者の方に学校の取り組みを知らせることが大切だと考える。	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおたね」で全ての教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・主体的に学習に取り組む児童の育成を図るために、「学習のめざす」や「授業のめざす」を明示し、見直しをもたせる取組を行った。 今後も継続して取組、児童の課題を把握し、学力の定着を図っていくための取組を考えていく。		・「授業中、勉強がわかる」の評価が良いことは、先生方にとって嬉しいことだと思う。この数字を下げないよう努力してほしい。	
豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感、自己肯定感、自己有用感などを育め、たくましく育つとともに、自他の生命を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を育む。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	児童アンケート「自分のリーダーになって学習や生活に主体的に取り組むことができる」の項目に肯定的な回答は、85.5%。	A 7 B 2 C 0 D 0	・子供たちのいじめ、不登校問題などとてもあることだが、早く気付いて対応することが大人の役割だと思う。	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う道徳指導充実のための取組を行う。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	児童アンケート「自分のリーダーになって学習や生活に主体的に取り組むことができる」の項目に肯定的な回答は、82.9%。 児童アンケート「他の児童の仕事をしっかと取組んでいる」の項目に肯定的な回答は、91.0%。 ・守っている 55.3% ・だいたい守っている 35.7%		・子供たちのアンケート結果から、自己肯定感等を自ら示されていることが素晴らしいと思う。	
		学校生活調査(メンタルチェック)の結果よりストレス状況のみならず児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	児童アンケート「他校スノーボードで守っている」の項目に肯定的な回答は、92.7%。 ・守っている 48.7% ・だいたい守っている 44.0%		・情操教育では小・中時代が大変重要だと考える。小中一貫教育を推進するために、中学校との交流を大切にしたい。	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・いじめ、関係行動、不登校問題等、早期対応を心がけて組織的に取組んできた。 今後も、継続するとともに、未然防止に努めていく。			
体力増進の向上と健康	スポーツに親しむ心や運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	生活指導主任を中心に、児童や学校の課題に応じて柔軟に対応してきた。 今後も、さらに児童の課題意識を高めるために、主体的にまきりを守る力を引き出す指導の充実を目指す。	A 5 B 4 C 0 D 0	・取り組み状況は大変良い。継続して取組んでほしい。	
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	保護者アンケート「体育・給食・保護者等」で、健康意識を高めるための取組が「自分のリーダーになって学習や生活に主体的に取り組むことができる」の項目に肯定的な回答は、91.2%。 ・守っている 92.9% ・だいたい守っている 7.9%		・体力づくりは大変重要なため、取り組みは素直に楽しんでいると思う。	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」指導を実施する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	各学年に応じた食育の取組の充実 1年 給食指導のランチメニュー 2年 給食指導のランチメニュー 3年 国語：食育を使用した給食を実施 4年 給食指導(給食指導) 5年 給食：考えた給食を給食で実施 6年 家庭科：献立を工夫した給食の実施 今後も体力増進に向けて取組の推進を図る。		・これからも食育の大切さ、体力の向上に努めてほしい。	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・守っている 92.7% ・だいたい守っている 44.0%		・学校の取り組みが成果として表れている。	
魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す。	校内研究「主体的に学ぶ楽しい体育学習」とし、主体性を育む重点に置いた体育指導等を通じ、児童が生涯にわたって運動に親しみ着地を育成する。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	保護者アンケート「子供は、分かりやすい授業、楽しい授業を受けている」の項目に肯定的な回答は、85.3%。 ・はい 51.3% ・どちらかといえばいい 35.4%	A 3 B 6 C 0 D 0	・OJTの推進に期待している。	
		授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおたね」で全ての教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	保護者アンケート「子供は、分かりやすい授業、楽しい授業を受けている」の項目に肯定的な回答は、86.7%。 ・はい 51.3% ・どちらかといえばいい 35.4%		・先生方の指導力向上を期待している。	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教員が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	学校公開保護者アンケート「分かりやすい授業」の肯定的な回答は、98.1%。 学校公開保護者アンケート「活動が充実していた」の肯定的な回答は、96.8%。 ・年間を通し、学期ごと3回の学校公開を行った。今後も保護者に学校公開を通して、学校の様子を見る機会を設けていく。		・先生方の子供を思う気持ちに感謝している。負担も増えていると思うが、組織的に対応していくことが大切だと思う。	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:対象となる全学年(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・校内委員会は、今年度18回行っている。 ・今年度から各学年1名の特別支援教育コーディネーターを指名し、校内における特別支援教育の円滑な推進を目指し取組んだ。 今後も教員の指導力向上と教育環境整備に努める。			
学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出す。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出す。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:3週以上更新した。 3:2週以上更新した。 2:1週以上更新した。 1:更新しなかった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	保護者アンケート「学校の、家庭や地域連携を深めて、教育活動の充実を図っている」の項目に肯定的な回答は、94.0%。 保護者アンケート「学校の情報発信、周知」の項目に肯定的な回答は、94.0%。 保護者アンケート「学校の教育活動の公開」の項目に肯定的な回答は、94.8%。 ・おやじの会と連携したイベントを年間1回開催。 ・学校支援地域本部と連携し職員委員会参加し夏のわくわくフェスティバルを開催する。 また、1年～6年の地域教育委員会や保護者の特別イベント2回等、協力連携を図った。	A 3 B 6 C 0 D 0	・大田区が導入を目指している運営協議会に向けて、現行の地域教育連絡協議会の運営方法を見直す機会にしてほしい。	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の受容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。	4:3週以上更新した。 3:2週以上更新した。 2:1週以上更新した。 1:更新しなかった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	保護者アンケート「学校の情報発信、周知」の項目に肯定的な回答は、94.0%。 保護者アンケート「学校の教育活動の公開」の項目に肯定的な回答は、94.8%。 ・おやじの会と連携したイベントを年間1回開催。 ・学校支援地域本部と連携し職員委員会参加し夏のわくわくフェスティバルを開催する。 また、1年～6年の地域教育委員会や保護者の特別イベント2回等、協力連携を図った。		・「地域」ともにある学校」となるように、出張所も全力でお手伝いしていきます。	
		学校支援地域本部と連携するなど、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:3週以上更新した。 3:2週以上更新した。 2:1週以上更新した。 1:更新しなかった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・おやじの会と連携したイベントを年間1回開催。 ・学校支援地域本部と連携し職員委員会参加し夏のわくわくフェスティバルを開催する。 また、1年～6年の地域教育委員会や保護者の特別イベント2回等、協力連携を図った。		・地域、PTA、おやじの会等、行事への参加をお願いしたい。	
		PTA並びにおやじの会等との連携を深め、地域の教育力を生かした多様な体験活動を実施する。	4:3週以上更新した。 3:2週以上更新した。 2:1週以上更新した。 1:更新しなかった。	4:50%以上 3:40%以上 2:30%以上 1:20%以上	・おやじの会と連携したイベントを年間1回開催。 ・学校支援地域本部と連携し職員委員会参加し夏のわくわくフェスティバルを開催する。 また、1年～6年の地域教育委員会や保護者の特別イベント2回等、協力連携を図った。		・地域でのイベントの目的の1つに、地域の安心・安全のために、多くの人と知り合いになってほしいことです。	

○ 成果評価は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。黄色の項目は、本校独自の評価項目である。  
 記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめを行う。  
 ○ 学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能であるの4点について、評価した人数を記載する。